国立大学法人
京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION

体育・スポーツ指導力養成プログラム通信

第2号　2017年度インターンシップⅠ・Ⅱ，アンケート調査，資格認定の報告
教職キャリア高度化センタースポーツ指導者養成事業

～体育・スポーツ指導力養成プログラムとは～

学校における体育・スポーツ活動において，安全かつ効果的に指導を行うことのできる，**実践的指導力**，**マネジメント力**の養成をねらいとしたプログラムで，プログラム修了者には大学認定資格を発行しています。

はじめに

体育・スポーツ指導力養成プログラムでは，1年間を通じて陸上，体操，サッカー，バスケットボールの4つの小学生スポーツ教室で指導実習（インターンシップ）を行っています．2017年度にインターンシップに参加した学生は37名（Ⅰ：15名，Ⅱ：22名）でした（図1）．実際の子どもへの運動指導では，多くの悩みにぶつかり，教えることの難しさを強く感じている学生もいました．そのような中でも，実習を繰り返すことで子どもを理解し，コミュニケーションが上手に取れるようになり，指導のポイントを理解していくことで，1年間の中で確実に運動を指導する力，教員になる上での力がついてきました．今回は，2017年度のインターンシップのレポートから学生の学びの一端を紹介します．加えて，資格認定者の報告もしていきます．

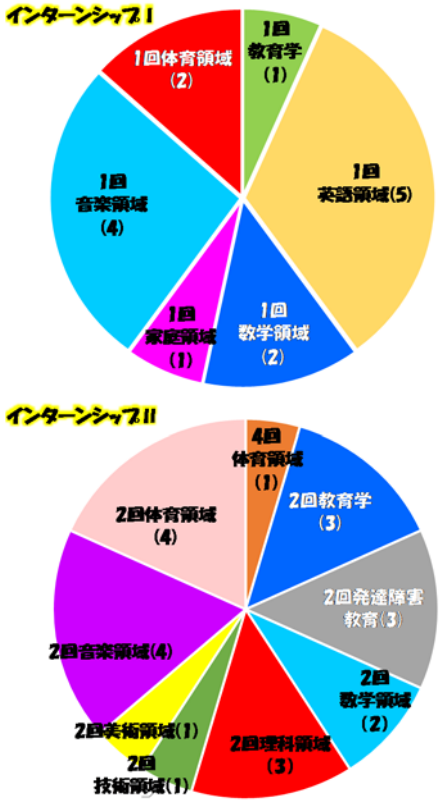


図1　2017年度インターンシップ参加学生の内訳（括弧）内は人数

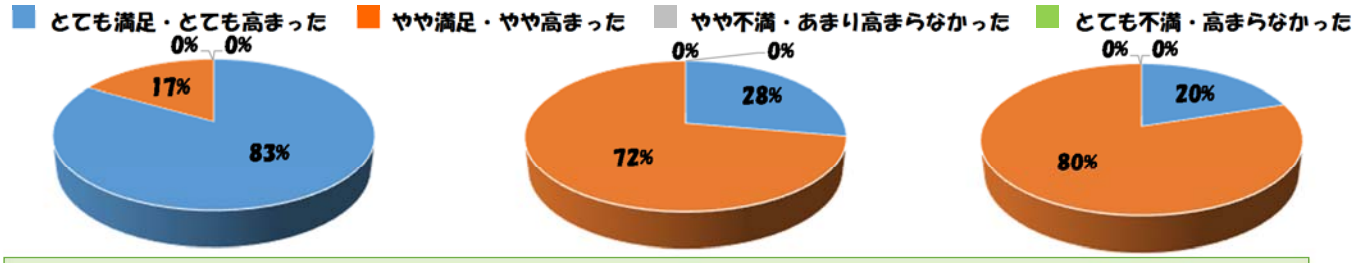
1.　インターンシップⅠ・Ⅱ

参加学生は小学生スポーツ教室4教室のいずれかに配属され，インターンシップⅠでは5回（2017年後期），インターンシップⅡではⅠと異なる教室で7回の実習（2017年前・後期）を行いました．ここでは，1.インターンシップ修了者（19名，3名は次年度継続）に行ったアンケート結果（一部抜粋），2.各教室での活動の様子を写真と学生のレポートを交えて紹介します．

Q.　インターンシップⅠ／Ⅱは満足でしたか?

Q.　自分自身の教員としての力は高まりましたか?

Q.　体育・スポーツ指導の自信は高まりましたか?



Q.　他の学校生活で役立つことがありましたか?（授業，教育実習，教採など）（自由記述より抜粋）

・**附属学校参加研究**で，小学生のスポーツテストの補助をする際の声かけや接し方に役立った．
・指導案を書く際，児童がどのような反応を示すかを考える時に役立った．
・児童に声かけをする際の声のトーンや大きさを学ぶことができ，**参加研究**で子どもと関わる際，実践することができました．
（以下，平成27・28年度アンケートより抜粋）
・子どもに合わせた教材を考えたり，**教員採用試験の面接時**に，子どもとの具体的な関わりについて話すことができた．
・**総合育成支援員**として公立の小学校現場に立った際，体育や休み時間に子どもを見る視点を増やすことができた．
・子どもの発達段階の理解，競技の特性の理解ができ，子どもに合った声かけができるようになり，**教育実習**の際の部活動指導に役立った．
・1・2回生の内から参加していたことで，**教育実習**で子どもと接しやすかった．

バスケットボール教室（担当教員：北川順一 客員教授）

インターンシップⅠ：4名，インターンシップⅡ：5名

音楽領域
2回
Tさん

インターンⅠ

今回は多くの学年の指導に入り，（中略）新たな課題が見えてきました．それは，高学年の子との関わり方です．男女ともに口が達者になり，こちらの指示に突っかかり，「私はできるからやらんでもいいし」，「こんな練習なんも面白くない」と言ってくる子が何人かおり，どのように指導して良いか分からないことが多々ありました．（中略）何故このような言葉を出してしまうのかを考え，例えば，「練習せんでいいんやし」の言葉の裏には，他の子の目が気になる，一生懸命頑張っても馬鹿にされるといった気持ちが隠されているかもしれないと思いました．そして，子どもたちが発した言葉をそのまま受け止めるのではなく，時にはその裏の気持ちに気づき，そのうえで声かけをしていかなくてはならないと感じました．

5 回という限られた時間では，性格や家庭環境を含めて 1 人 1 人の子どもを十分に理解することは難しかったですが，教師になった時には 1 人 1 人としっかりと向き合っていきたいと思いました．（中略）子どもにきついことを言われたのは初めてで，教師になる自信や意欲を一度は失いましたが，やはり教育に携わっていきたいと思っています．一生懸命バスケットボールに取り組む姿や，私の呼びかけに反応してくれる姿を見て，そう感じました．悩むこともありましが，経験を積むことができ，受講してよかったと思います．これからも見つけた課題を克服できるよう，日々過ごしていきたいです．

理科領域
3回
Yさん

インターンⅡ

私は 1 回生でのスポーツクラブ指導入門でバスケ教室に参加しました．その時は子どもに話しかけるのがとても怖く，おどおどし，どのように子どもと接していいのかわかりませんでした．そしてインターンシップⅠでは陸上教室に参加し，子どもと目線を合わせて話すこと，全体に指示をする時は全員に見える位置で大きな声で動作をつけて伝えるとわかりやすいことを学び，インターンシップⅡでは今まで学んだ子どもとの接し方を活用して，運動を一緒に楽しむこともできました．（中略）

ここで学んだことを私の基礎の一部として，さらに経験を積み，子どもの気持ちに寄り添って，スポーツを楽しめる場を作れる人になりたいと思っています．さらに，他教科の学習や遊びの時間においても，子どもとの触れ合い方，教え方は共通していると思います．3 回生では教育実習があります．授業を考えることでとても忙しいと思いますが，子どもとの触れ合いが自然にできるようになっておけば，子どもの考えを理解し，気持ちを読み取ることが上手にでき，より良い授業を作ることができると思っています．

サッカー教室（担当教員：福田博 客員教授）

インターンシップⅠ：3名，インターンシップⅡ：7名

数学領域
3回
Nさん

インターンⅡ

3 回＋5 回＋7 回の実習が終わり，（中略）子どもたちの純粋な笑顔を近くで見ることが出来て，その姿は何度も何度も心に響きました．（中略）しかし，それと同時に教員になることの難しさや，責任の重さも感じました．小学生という時期は良くも悪くも染まりやすく，（中略）今は何もかもできないと教員になっても悪循環に陥るかもしれないと感じてしまっています．一方で，子どもの成長を近くで見ることのできる教員という職業は本当に魅力的であり，これからあらゆることを学んで，経験して，自分自身成長していきたいと思っています．

スポーツクラブ指導入門でもサッカー教室に参加したので，前回のレポートを振り返ってみました．そこには，子どもたちと上手く関われていない自分がいました．子どもたちと関わるのが精いっぱいで目の前のことばかりを見ていたようなレポートでした．それから見ると，この 1 年間で，子どもとも自分から抵抗なく関わることができて，次の段階に進めているように感じます．（中略）　本当にたくさんのことを学ぶことができ，このカリキュラムを履修してよかったです．

インターンII　理科領域 3回 Iさん

インターンシップを終え，特に心に残ったことが 3 つあります．1 つ目は子どもの成長のはやさについて，2 つ目は子ども同士がすぐに協力できる力について，3 つ目は指導方法についてです．

今回参加したサッカー教室では，子どもを指導している学生コーチの指導方法から学ぶことが多く，休憩時間と活動時間のめりはりを声のトーンや指示の言い方で伝えること，子どものやる気を起こさせるための勝負の活用，飽きさせない練習内容の工夫など，様々なポイントを学ぶことができました．

これらはサッカーの指導のみに言えることではなく，これからの様々な場面で活用していくべきことだと思っています．また，より良い工夫を考えるためには子どもの理解が大事であり，これからも児童理解について深く学ぶ必要性を感じました．サッカー教室を含むインターンシップを通して，これから教師として活動する時に活かせることをたくさん知れ，大学で学ぶべきことを再確認することができました．学んだことをこれからの生活でもより一層考えていきたいと思います．

陸上教室（担当教員：杉岡憲二 客員教授）

インターンシップ I：3名，インターンシップ II：3名* *17年度内に規定回数に達しなかったため，18年度に残りを実施

インターン I　数学領域 2回 Sさん

5 回のインターンシップの最終回での指導の担当で，運動内容を考えることがとても難しいことがよくわかりました．子どもはどのような反応をするか？，時間配分はどのようにすれば良いか？，上手に説明できるか？，とても不安でした．実際やってみて，子どもの注目を集めること，話しを聞いてもらうことの難しさを実感しました．（中略）杉岡先生からの振り返りで，今の私でも工夫できることが多くあることがわかりました．そして，たくさんの経験を積むことが大切であることを感じています．（中略）5 回の実習を通じて私は自分の成長をとても感じています．この経験をいかして，これからも多くの経験を積んでいきたいと思っています．

インターン I　英語領域 2回 Sさん

1 つの教室として成立している場所にインターンシップ生として参加し，初めは何もわからなく，大変なことも多かったです．（中略）スポーツクラブ指導入門で参加したサッカー教室とは違う性格，運動能力の子どもが集まっていて，すごく不安でどのように関われば良いかが分からないスタートでしたが，「指導者から積極的に行かなければ子どもは来ないという」指摘を受け，気持ちを改めて参加をすると，子どもが自然と寄ってきてくれるようになり，（中略）子どもが寄ってきてくれると自信になり，（中略）結果的に，自分を成長させる源となりました．

今回の実習を通じて，具体的な技術指導は難しかったが，子どもとの接し方，教室の運営など，何をすべきか多くのことを学ぶことができました．

体操教室（担当教員：海原洋 客員教授）

インターンシップⅠ：5名，インターンシップⅡ：7名

数学領域
2回
Kさん

インターンⅠ

インターンシップⅠを通して，子どもへの関わり方，声のかけ方，注意や褒め方など多くのことが勉強になりました．子どもが好きだけど関わり方がわからないということは大分改善されたように思います．（中略）

5 回の活動は，子どもたちの成長を身近で見ることのできる初めての機会でした．こんなにも子どもの成長がうれしいものだとは思いませんでした．教師という仕事に何が何でもなりたいという思いを再確認させてくれるものでした．（中略）子どもの集中力の継続の仕方，安全面，関わり方，話を聞く姿勢の作り方，けじめをつけること，叱るにしてもそのタイミングなど，もっと勉強していくことはたくさんです．頑張っていきたいと思います．

技術領域
3回
Oさん

インターンⅡ

インターンシップの 7 回を通して，逆上がりや頭はね跳びの技術的な補助，運動をする際に注意する点などを学び，身に付けることができました．また，子どもたちと教室を通して触れ合うことで，コミュニケーションの取り方なども身に付けることができ，実習始めの頃に比べて大きく成長出来たと感じています．（中略）

子どもの成長を間近で見ることができたことも，参加して良かったと感じる点です．最初は出来なかったことも練習を重ねるうちに上達し，できるようになった時に見せる笑顔はとてもまぶしく，かけがえのないものでした．（中略）今回のインターンシップで心残りがあるとすれば，やる気のない子や技術面で大幅に遅れている子に対しての指導が不十分で，どのように対応していけば良いのかが十分に分からないまま終えてしまったことです．（中略）教職の現場ではクラスの子どもを 1 人で見なければならないために，そういった場面での対応が十分にわからないことは不安です．3 回生では教育実習もあり，それまでに学べる機会を作っていこうと思います．

2.　学校運動部活動指導者資格（基礎・上級）認定状況の報告

平成 29 年度の資格取得者は，基礎 11 名，上級 11 名の計 22 名でした（表 1）。現在の資格認定は卒業時に行っているため，資格取得者は全て 4 回生です．教員採用試験に合格し，教員として働き始める学生，講師を希望し，教壇に立つ（立とうとしている）学生が資格取得者の大部分を占めています．小学校・中学校・高校と教える場は異なっていきますが，体育，スポーツ，運動遊びをはじめ，このプログラムで培った力を活かせる場面は多くでてくると思います．「体を動かすことの楽しさ」，「できないことができるようになっていく喜び」をはじめ，子どもの将来につながる多くのことを効果的に教えることのできる場を作れる教員，体育・スポーツの指導者として活躍することを願っています．

表1 平成29年度学校運動部活動指導者資格（基礎･上級）認定者の内訳

基礎		上級	
教育学	1	教育学	1
理科	1	家庭	1
英語	1	美術	1
体育	8	体育	8
計	11	計	11

（数字は人）

本プログラムでは，これまで卒業時に資格を認定していました．今後は，教員採用試験をはじめとする就職活動時に，本人が資格を有している状況を作れるよう，資格認定基準を満たした段階で資格を発行できるシステムを目指して，平成 30 年度中に認定システムの改善を行う予定です．なお，平成 30 年度より資格の名称を変更し「スポーツ指導者資格（基礎・上級）」として進めていきます．

教職キャリア高度化センター　スポーツ指導者養成部門　体育スポーツ指導力養成プログラム　（担当）小山 宏之